



好能和多理

利

伊地知文庫  
文庫20  
420







修聖能初由程乃志くあま

兼陸多取者久志のおまのけくく東久

れけのれあうはか子お下ひさるり

何らまふつまそ 流流そまいなるかのさ

むお便かつるるからおのるれからそ解

母のついにそそくさいらふたいそあ 玉こもあの子

とそあれる流母のふらえそるおあこねるの



巻一

一



あやうく人かきまはるがー衣ぬりあら  
あはれもなきはるやま目まのむらふ  
いももよしむかしくまむまじのむーき  
おききん屋女たはゆき極くさふま  
いそ家園まはるがー男まつむかま  
祿の終あるま、神の古名いさくま  
はらわたりあまあまあまぬこのうけ保を

あやまいむあまよきまいかくまん祿ぬき  
の終まつりかー祿もまらやのこまはるま  
まはるがーくまはるこまあまあまく祿  
あはれもなきはるやま目まのむらふ  
いももよしむかしくまむまじのむーき  
おききん屋女たはゆき極くさふま  
いそ家園まはるがー男まつむかま  
祿の終あるま、神の古名いさくま  
はらわたりあまあまあまぬこのうけ保を







男源と叔父

徒持れりて衆

宗碩

此夜伊勢丸園に下りたり  
ことハ往いぬる手力も急はるるにや。  
駿州より宗長禪老たよりれ文一  
て申まうし送ねくれハ大祚ま  
左願として。獨吟の子句ねまひ  
たつこと有り。恙然もあれど。老れ  
ほり積り殊あとの介にそ。沈吟も  
こと事ゆ行れ随ね三。二とせ三







三輪の山をばらばらとて...  
いふ杖をばらばらとて...  
三輪の山をばらばらとて...  
いふ杖をばらばらとて...  
三輪の山をばらばらとて...  
いふ杖をばらばらとて...

蓮花院 宗長も池上に南都より蓮華院...  
大衆院 和列舊跡考三に大衆院ハ...  
興福寺此寺務職ハ宝字元年慈訓僧都...

三輪の山をばらばらとて...  
いふ杖をばらばらとて...  
三輪の山をばらばらとて...  
いふ杖をばらばらとて...  
三輪の山をばらばらとて...  
いふ杖をばらばらとて...

かきつたはれ進まじ。いささりまき歌  
おどの心持もせむと。からうとて  
七月廿日ごろにぞ思立侍りし。  
其は尾張力玉よりさる人れ上洛  
ありしを。伊勢れまきりまでとい  
がなひは。先給いで侍りし。その  
二字一曰ハ左良れ都。蓮花院とて  
本元 志る人れ侍る侍傍に落しをぬ。  
又此日ハ大衆院の御門至一本  
本跡に 多上内より有り。法杯とて一本  
大く

はて。それよりあか...  
るれとふ。二日むりありて連歌一  
有改 有下向 有叶  
む。此彼 此彼 此彼  
して何ひぬ。さて廿四日初一本  
に出さうとて。三輪が崎控く...  
まもくにありぬ。かの万葉れある  
とまも今めやうにせひ出れ  
て。何宿 何宿 何宿  
し。いほふりあもあうんと。







家、乾飯、志、一とて、山井の水をむすび、  
かれいひのつとことりぞおつるま、いり  
へハ、根り用、こ、乾飯、お、る、こ、後、こ、乾飯  
あ、ぬ、食、と、用、る、こ、れ、ま、り、こ、も、名、ハ、古  
は、り、て、れ、れ、い、と、い、ま、今、の、其、事、高、こ  
ま、ま、り、

三条がいず、係氏おふ、こ、の、弁、こ、こ、ら  
二、条、と、な、さ、れ、く、い、お、ま、り、れ、て、ま、ま、も  
こ、ぬ、と、は、く、と、お、ゆ、ら、も、う、ち、は、い、ち、り、や  
云、く、

筒井 大和志三、係下郡筒井、属邑四、云、く、  
筒井村云、く、

大和志十一、宇陀郡菅野、属邑六、云、  
ま、菅野、係、係、白、髪、峠、係、菅野、至、何、令、  
列、云、く、

多氣 和名抄、大和守、飽郡、ま、多、氣、  
れ、こ、れ、ハ、伊勢、れ、る、へ、和名抄、伊勢、多、氣、  
郡、多、氣、多、分、云、く、神名式、上、に、伊勢、多、氣、郡、  
廟、宮、式、ハ、伊勢、多、氣、月、云、く、  
官領 管領の首字、堪、康、抄、七、官領、  
申

相可とり、お、ま、り、ぬ。今日、も、又、高、系  
七郎、を、湯、尉、五字一盛孝、打駒、並う、ち、あ、く、  
て、送、了、せ、ら、る。一本、他、ら、い、さ、り、と、を、  
れ、り、る、らん、い、お、り、て、調厚、乃、こ、と、と、  
ぬ、て、一本、他、ま、田、に、は、さ、り、ゆ、ぬ、る。  
予、泰、玄、の、た、ら、ハ、旦、代、一本、他、  
細、代、太、郎  
び、ハ、菅、屋、老、人、と、系、舍、乃、た、め、た、れ  
た。高向、二、頭、大、夫、光、定、亦、以、て、此、度、辛  
比、の、お、後、一、は、く、即や、が、て、子、向、の

ハ、近、比、ノ、事、也、本、ハ、執、事、ト、云、キ、大、御、所、ノ  
御、時、高、師、直、朝、臣、久、ク、此、職、ニ、ア、リ、シ、執、事、ト  
号、ス、サ、レ、バ、執、事、ノ、施、行、ト、云、昔、ハ、高、上、校、ノ  
人、々、ノ、役、タ、リ、キ、近、比、御、一、族、ノ、能、ト、成、テ、ヨ、リ  
以、来、管、領、ト、申、也、鹿、苑、院、殿、ノ、御、代、ノ、初、メ、友、斯  
波、俊、理、大、夫、高、延、号、靈、源、院、法、名、道、朝、始、テ、此、職  
ヲ、承、リ、給、時、再、三、回、轉、シ、給、シ、カ、バ、只、天、下、ヲ、官、領、ト、  
御、計、依、ト、仰、出、サ、レ、シ、カ、バ、領、狀、被、申、テ、四、男、治、部  
大、神、兼、將、ヲ、以、テ、此、職、ニ、居、給、ト、云、其、ヨ、リ、以、降、御  
一、族、ノ、職、ト、成、テ、管、領、ト、申、也、因、東、モ、管、領、ト、イ、  
共、上、校、久、ク、此、職、也、云、海、人、傳、抄、下、一、細、川、武、藏  
守、頼、之、近、ハ、執、事、ト、称、ス、其、以、後、皆、稱、管、領、也、此  
事、依、時、事、依、云、  
北畠の少将 北畠准后親房卿の三男大納言政能  
卿より、代り伊勢国司なりし、天正の比、中納言具  
教卿、織田信長の長子信雄を養子とし、その家  
を承り、その名を継ぎ、其教の父時具朝臣  
けいすけ、諸家侍補任、云、  
相可 和名抄、伊勢多氣郡相可、所布、云、く、神名  
式、上、に、伊勢、多、氣、郡、相、可、山、神、社、相、可、上、神、社、相

支度 あり、ま、り、に、あ、り、ぬ。此、法、樂、ハ、さ、る、ん  
何、り、て、官、領、の、お、後、向、中、の、ま、り、  
ゆ、り。一本、他、  
備、ひ、と、く、小、天、下、安、全、れ、い、  
ぬ、り、あ、る、べ、し。才、十、八、道、遥、院、殿  
聽、雪、沙、發、向、也、り。さ、て、八、月、四、日  
吉、日、と、し、ま、ど、め、給、ぬ。同、八、日、に、  
を、ま、り、ぬ。此、會、ハ、お、志、づ、く、お、大、り  
た、こ、し、も、こ、こ、を、先、ち、と、ま、と、  
り、か、ま、り、て、ま、り、れ、り、ぬ、り、。さ、て  
子、向、ぬ、ら、り。光、定、一本、  
他、頁、興、行、乃



鹿木太御神社神風抄、多氣郡相可郡、相可郡御  
前、（とあり、倭姫世記十五年に大川瀬渡信に為す鹿  
安流相友、是誠、惡詔天不渡坐、其瀬守相鹿瀬、号是、  
る。

いそり、神名帳に、伊勢多氣郡伊佐和神社云、  
柴屋老人、柴屋八宗長の号、駿河国丸子河の地  
に、柴屋寺とて、今も宗長の旧跡あり、（り、  
ハ東道行書抄十の巻に、  
道遠院經雪、西三条内大臣藤原隆、公、永三年  
四月十日出家法名志空、號を應雪といふ、家集  
十八卷聚雪集、名づく、後人雪玉集といふ、  
鈴鹿の山、和名抄、伊勢鈴鹿郡鈴鹿領、加、  
天武以上、至、伊勢鈴鹿、（、  
鈴鹿止道云、大神宮儀式帳、鈴鹿小山宮坐、  
時川保野造等速祖大比古、故國名何同賜、  
味酒鈴鹿國止白支、（、  
兵部式、伊勢國、鈴鹿二十正、（、  
八十瀬渡、  
大湊、神風行書抄五、大湊、此処ハ鳴ナリ、東面西海  
ノ邊、船ノマド、（、太平記、此勢皆伊勢大湊

二集テ云、正廣日記、伊勢の山田と云、  
日やも、（、  
川時、伊勢奉宮按内記下、河崎、山田より東北  
云、又云、昔ハ河をの里といひ、  
こころのつを、係氏夕良、  
あ、（、  
十、  
奴、  
重、  
之、  
伊、  
後、  
呂、  
り、  
に、

一、  
行、  
近、  
此、  
へ、  
十、  
告、  
湊、  
ひ、  
り、  
か、  
毎、  
易、  
こ、  
伊、  
と、  
り、  
ん、  
し、

一、  
行、  
近、  
此、  
へ、  
十、  
告、  
湊、  
ひ、  
り、  
か、  
毎、  
易、  
こ、  
伊、  
と、  
り、  
ん、  
し、

こころのつを、係氏夕良、  
あ、（、  
十、  
奴、  
重、  
之、  
伊、  
後、  
呂、  
り、  
に、



小言と古伊、遠江佐野郡、小松を古萬郡と  
し、權馬樂本行に在保世利也、  
敵手比大木曾子木曾の執子とて、  
いハ、子の例も、古口本、  
と云ふ、古口本とて、  
五だれのこが、風俗を主、  
奈加仁浪恵天云、奥後秋、  
風俗の異、  
いづゝとある、  
りんと、  
ア、

と鼻ぐくき吾河またびめぐり  
て。大湊にさよせぬ。わりの旅宿ハ  
馬淵のな某にがー成俊不ちり。あま  
は早とめて舟出さべいこりか構まへ  
ゆるよ。晴ぐりり風うりて。村  
面のやうにう出ぬ。送りかん  
かつりて。溪近きやどりに。お夕  
耳訓なるよおとしてハ。浦波のねと。  
何くもー地埴風構。ま語くおとひ  
く来ふハ使たづ不とも知ぬ人より

とひさなるが、  
いみん、  
開ハ、  
た、  
回若、  
て、  
み、  
ま、  
む、  
ね、  
や、  
右記、

お好徒。ほ然く若なるまに。こ地  
人誘いさむ。是より二見の浦ハ  
ま立ひ尺つ尺る尺ぞ尺ち尺れ尺バ尺行尺み尺る尺に  
湯尺れ尺さ尺海尺。山尺れ尺た尺ま尺ひ尺。ま尺こ尺ま  
ま尺地尺孫尺小尺似尺ま尺る尺松尺の尺む尺ま尺好尺と  
い尺へ尺ま尺さ尺り尺。渚尺れ尺方尺に尺う尺ち尺む尺  
れて。貝尺石尺も尺で尺溪尺流尺ま尺ひ尺る尺ひ尺  
ほ尺り尺へ尺ま尺は尺。や尺ど尺り尺の尺方尺に尺何尺ま  
の尺い尺さ尺り尺び尺あ尺の尺た尺み尺え尺。月尺れ  
に尺ち尺り尺ぬ尺。ま尺よ尺ひ尺も尺る尺ま尺や尺う尺ふ尺















おきてよ名不いふ。連秋の面八句よ名不  
とことらふ。面のよ歩。連秋の式。連  
秋初学抄とよもふ。

食籠 下学集器財門よ食籠と。探原集家  
具部よ食籠と。前用集志部に食籠と。キ  
ウ三。運歩色集志部に食籠と。

あることにて。その响がうり。きれ  
くさうつぐれありて。追もまら  
ゆるほどふ。坂中勢亟氏安。豆代紀  
三弘宗。はあうりれ。食籠れ  
り。物とらぐはて。あまぐさか  
さねくりゆる。一日十六日。あれ  
後。目くにさうりゆる。七字一本他  
五と。え。ぬ一本障。一本  
字と。え。ぬ一本障。一本  
て。い。に。今。一  
そ。舟。い。む。び。は。と

都つと 万葉三安竟王のゆのおさ  
白は花ももがつみく。家。は。同  
十五。三首。同。三首。家。と。の。あ  
り。

さへおとふり。れた。と。は。い  
る。り。さ。二。一。拍。と。竹。四。一。流  
れ。禪。師。れ。る。が。これ。を。朋。友。は。て。興。あ  
る。家。だ。と。葉。れ。と。や。う。わ。お。い。と  
随。身。し。て。事。同。ひ。来。れ。る。と  
と。と。と。と。ひ。て。サ。三。百。月。侍  
い。は。る。り。と。そ。わ。ひ。り。と。み。と  
目。つ。か。に。漢。風。の。歌。家。も。あ。れ。つ  
は。秋。と。と。よ。は。一本。有。の。一。つ。  
あ。い。一本。有。と。と。み。と。わ。の。く。み。乱。難



いせをりりのほぐ 伊勢物語に伊勢とては  
 りのありひのほげとてとくはほのいと  
 ぶろくくをみていよーくはにーく  
 れるーとにらーやまーくをかつるほろ  
 云くはづーハ海邊とていふにつ、田つゝな  
 とみちそのわりのこといへん

采名 和名抄に伊勢采名郡采名久遠采名  
 神名式上、伊勢采名郡采名神社二座云々

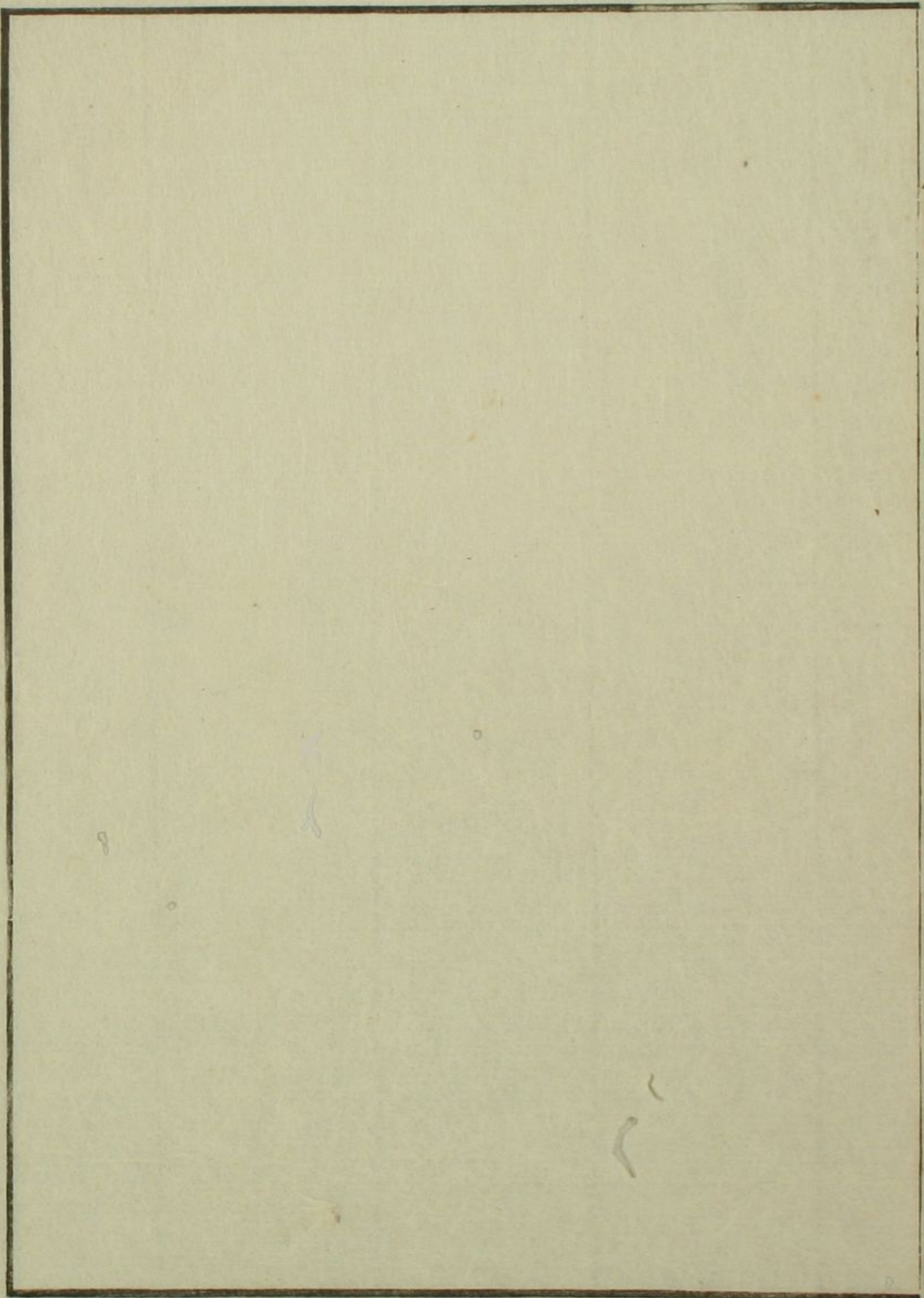
りがいゝれたまをそゆるりゝ。おま  
 もや明ちんといひ多知とに。ねま  
 かの風をそりねと。母子とて  
 こまぐのよかして。采ゆるねい  
 力ぬ<sup>幣</sup>ととりあへぬまを<sup>走</sup>とて  
 くに。彼伊勢尾張のうみつとれと  
 いひー古こととていひあて。さ  
 しかのんも意ーなる。  
 へい<sup>先</sup>されま<sup>急</sup>いそだゆるま。お  
 ね<sup>一本</sup>玉の<sup>元</sup>采名とりよ湊に

はさぬあ乃やどりハ矢部五郎を  
 傍尉宗<sup>一本化書</sup> 繁宿雨をり。此族  
 或化主  
 此日記ハ三輪が崎此雨のうーた  
 ことそれだつさにより志るーけけ  
 ゆるきた。佐野のこりこやま  
 こと<sup>二字一本化</sup> べりん。  
 中<sup>二字</sup>

松之舎藏本奥書  
 明暦四年戌六月廿一日令書了畢  
 成俊神主四代孫荒木田成秀  
 鹿嶋文庫本奥書  
 奉納佐野之渡全 文庫前基主 法橋宗茂



宗碩法師うさけわす程といふふたひ  
の日記のうさき父翁の文翁子なをさく  
おきしうさきをさくおれの書とおれ  
進了しおれせし中かういふことさし一絶し  
一はつてふおれも物をさくおれまをさく  
庶務文庫に本海神風行囊抄ふひま  
たか文をさくしあきせしあきあふし  
なをさくし一絶し父翁の説をさくおれが





清かきくそ志つふかたり、文政七と勢とあり  
と一のやふいとらと高田清年志あり

余嘗讀王鳴盛所著始存稿。有紀心齋  
啼猿集序曰。豪者多畜妾媵。得子  
甚易。而偶失之。則以為大戚。窶者得子易  
則賤而忽之。豪者多不能為詩。窶者深  
哀永歎。多借詩以發之。心齋非窶者  
也。得子甚艱。而復失之。而悲焉。蓋其哀  
楚之意。溢于言外。字句辭音。感動人



心者。非歟。噫。人生離別之苦。使人腸斷。  
何為貴賤貧富之論。究之悽愴哀楚  
之情。莫如水訣也。余甚傷蕙林涵子。  
長于才而短于壽也。蕙林妙齡儁才。  
翩翩藝苑。遨遊文場。最好校訂典籍。  
雜兔園小冊。不輕易放過也。是以擇焉  
精。語焉詳。各得要領矣。今為甲申  
冬。授剞劂以校正之書。余見其手澤。  
悲哀酸鼻。益知鳴盛之文。能涉人  
情也。噫。蕙林既亡。而家嚴儼存。非  
復窶者也。其心果何如耶。顧以手  
澤之書。壽之梓。圖其不朽。蓋  
亦其悲哀之所以無終極也。乃題  
卷於卷尾。併言之。



文政甲申臘月

松塙郷長庭盈撰

高田清年子校本目錄

交替式

多度寺縁起私財帳

信明集

義孝集

仲文集

順集

重之女集

匡衡集

忠盛集

隆季集

長綱百首

正覺国師集

澤庵和尚集

衣川軍歌

塚原卜傳百首

鎌倉分限帳

色紙短冊傳

神祇官圖

元龜年中江戸圖

名加内番



遠嶋御百首  
順德院御百首  
土御門院御百首  
高臺院集  
為家願顯百首  
瑤樹抄

和琴圖  
犬追物圖  
関東河渠畵  
武藏見沼川圖

文政七年甲申十二月

林書

京都寺町通松原下  
勝村治右衛門  
大坂心齋橋安堂寺町  
秋田屋太右衛門  
江戸日本橋通壹町目  
須原屋茂兵衛







